

## 平成27年総務企画委員会会議録

1. 招集年月日 平成27年10月14日
2. 招集の場所 可児市役所5階第1委員会室
3. 開 会 平成27年10月14日 午後1時29分 委員長宣告

### 4. 審査事項

#### 1. 報告事項

- (1) 可児市人口ビジョンについて(最終案)
- (2) 可児市総合戦略について(最終案)

#### 2. その他

- ・総務企画委員会行政視察について
- ・議会アンケートについて

### 5. 出席委員 (8名)

委員長	澤野 伸	副委員長	天羽良明
委員	林 則夫	委員	可児慶志
委員	山根一男	委員	伊藤 壽
委員	渡辺仁美	委員	大平伸二

### 6. 欠席委員 なし

### 7. 説明のため出席した者の職氏名

企画部長	佐藤 誠	総合政策課長	纈 纈 新 吾
------	------	--------	---------

### 8. 職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	吉田隆司	議会総務課長	松倉良典
書記	小池祐功		

開会 午後 1 時29分

委員長（澤野 伸君） 定刻前でありますけれども、委員の皆様おそろいですので、ただいまから総務企画委員会を開会いたします。

委員の皆様には、御参集賜りましてまことにありがとうございます。

本日は、執行部より 2 点の報告事項を議題とさせていただきます。

昨年12月に制定されましたまち・ひと・しごと創生法に基づき、現在可児市では平成27年度中に地方人口ビジョンと地方版総合戦略の策定を進めております。8月にはその中間報告を受けたところでありますが、本日は執行部よりその最終案の報告の申し出がありましたので、委員会を開催し、報告を受けるものであります。

それでは、まず初めに報告事項 1 番目、可児市人口ビジョンについて（最終案）を議題といたします。

執行部の企画部、総合政策課に説明を求めます。

企画部長（佐藤 誠君） よろしく願いいたします。

去る9月17日の総務企画委員会におきまして、可児市人口ビジョンにつきましては御説明をさせていただきましたけれども、その後修正箇所、それから変更した箇所もございますので、その点を中心に説明のほうをさせていただきますので、よろしくお願いをしたいと思います。

総合政策課長（瀬藤新吾君） それでは資料の1番、可児市人口ビジョン（案）をごらんいただきたいと思えます。

この人口ビジョン、それから総合戦略については、9月17日の総務企画委員会で説明しました案を、翌日の9月18日から30日までホームページ上で公表いたしまして意見募集をしました。しかし、意見は出ておりません。

それでは、人口ビジョンの主な修正・変更箇所でございますが、11ページをごらんいただきたいと思えます。

11ページには、岐阜県の社会動態の推移ということで可児市の世代別日本人の社会動態がございますが、以前は平成25年度のデータを用いておりましたが、最新の平成26年度のデータが公表されましたので、そのデータに差しかえをしております。

本市の職業上、学業上、結婚等による転出超過、住宅事情による転入超過といった傾向については同じでございました。

続きまして、変更点としましては20ページをごらんいただきたいと思えます。

20ページには、アンケート結果の集計について記載がしてございますが、前回9月にお示ししました際には3,000人のアンケート全てを合わせた形で集計し、出させていただいておりましたが、今回やはり無作為抽出の結果ということで、全体については16歳以上の市民2,000人に配付した結果、若年層としては16歳から39歳までの市民へのアンケートの回収結果、それぞれ別で集計をするということにいたしました。

それで、そのデータを使いましたのは、21ページから24ページについては定住についてと

ということで、全体、市民2,000人からのアンケートの結果を使って報告をしておりますが、内容的には3,000人の結果によるものと変わりは特にございません。

それから、25ページから31ページまでは結婚・出産・子育てということで、25ページにございますように若年層の意見、これは16歳から39歳ということで、アンケートの結果はこの年齢だけによるアンケートの結果を出しております。

また、あわせて男女別のデータも表示をしております。例えば31ページをごらんいただきますと、31ページには子育て支援策についての回答が載っておりますが、例えば女性で希望が多いものは、上から2つ目、子育てと仕事を両立できる職場環境、こういったものに対する女性の要望は多いですけれども、男性についてはその上、一番上の経済的安定化を望む声が多い。多少このアンケートについては、男女によって回答に差があるといったような状況がございましたので、その結果を出させていただきました。

33ページから36ページについては、この人口ビジョンのまとめの部分でございまして、内容的には9月にお示した案と同じでございます。

資料的なものとしたしまして、36ページをごらんください。

36ページの下のところに移動率の設定というものがございまして、可児市の人口を推計したときの条件について、説明を追加させていただいております。

人口ビジョンにつきましては以上でございます。

委員長（澤野 伸君） ありがとうございます。

それでは、ただいまの報告事項についての質疑を行います。

質疑のある方、どうぞ。

委員（可児慶志君） 今の表記によって特に影響するところはないわけですね。

総合政策課長（瀬藤新吾君） アンケート結果を分けましたけれども、特に内容を大きく左右するものはございませんし、結果にも影響はございませんでした。

委員長（澤野 伸君） そのほか、いかがでしょうか。

特になければ次に進めさせていただきますが、よろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

それでは、発言もないようですので、これで報告事項1番目、可児市人口ビジョン最終案についてを終了させていただきます。

続きまして報告事項2番目、可児市総合戦略について（最終案）を議題とさせていただきます。

執行部の説明をお願いいたします。

企画部長（佐藤 誠君） それでは、可児市総合戦略につきましても、9月17日の総務企画委員会で御説明させていただきましたけれども、その後、数値目標、それからKPI等で変更、それから修正等ございますので、御説明をさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

総合政策課長（瀬藤新吾君） それでは資料の2番、可児市総合戦略（案）をお願いいたし

ます。

それでは、7ページをごらんください。

7ページ以降については数値目標、それから重要業績評価指標（KPI）について記載がございますが、今回は前回の案から設定項目の変更ですとか、目標値の設定を新たにするなどの変更がございましたので、これは後ほど逐次説明をさせていただきます。

また、それぞれに施策の内容を四角の中で説明をしておりますが、内容的にはほぼ同じでございますが、表現を一部わかりやすくなるように変えておるところがございます。後ほど、内容を変更した部分のみ御説明をさせていただきたいと思っております。

それから、内容の右側に主な担当ということで、以前は部の名前を表示しておりましたが、今回は課の名前に表示を変更しております。

それでは、目標等について順に説明をさせていただきます。

まず、7ページの一番上、数値目標については3つございます。

1つ目、市内の総生産額、この総生産額につきましては、欄外に注がありますように市内の事業所における生産活動によって生み出された付加価値というものでございます。これについて、市の経済活動をはかる指標として設定をいたしております。この総生産額については、社会経済情勢に大きく左右されるものですし、今後飛躍的に上昇するということは見込めませんが、最新が平成24年の3,364億円を平成31年に3,500億円に増加させるといった目標としております。

2つ目の市内事業所従業者数です。

これは市内の産業規模を従業者数であらわしているという数値でございます。今後人口が減っていく中でこの市内事業所の従業者数をどう見ていくのか、企業の新たな立地ですとか拡張などによって従業者数がふえるといった施策の成果も見込みながら、基準の平成24年の3万8,260人を平成31年には3万5,800人、これは減少しております。実はこの市内の事業所の従業者数につきましては、3年から4年置きに調査をしております。国の調査でございますが、これまでのピークは、事業所・企業統計調査というものがございます。平成18年、このときに4万3,076人ございました。それが徐々に減少傾向にございまして、基準値の平成24年で3万8,000人余りと、若干減少してまいりますが、平成31年に3万5,800人というような設定をしております。

続きまして、製造品出荷額等でございます。

本市は、御案内のとおり製造業が産業の非常に中心的な位置を示しておりますので、その製造業の規模をあらわす数値としてこの製造品出荷額を設定しております。今後、新たな企業立地等も見込みまして、平成31年に5,300億円といった数値を目標としております。

7ページの一番下に重要業績評価指標（KPI）、以降KPIと略させていただきますが、KPIがございます。

これについては、新たに企業立地が進む、あるいは市内企業の拡張によって新規の雇用人数が何人になるかということを目標として掲げております。これまでの誘致等の結果、実績

をもとにしまして、この5年間に170人の雇用、うち正規雇用を120人といった目標を立てております。

続きまして、8ページをごらんください。

8ページの一番下のところに、またKPIがございます。

1つ目は、創業・起業件数ということで、これについては市の創業支援事業計画というものがございまして、その目標からこの平成31年度、これは今後の5年間の累計値として75件といった目標値を持ってきております。

続きまして、地域通貨Kマナーの発行額でございます。

これは市からの補助金ですとか報償費をこのKマナーを用いることによって市内の消費につなげ、市内の商工業の振興を図るといった意味での目標設定でございまして、平成26年度の3,700万円を1億5,500万円にふやすといった目標を立てております。

3番目の、可児市の自慢できるものを記入した人の割合ということで、これはアンケート結果の数値を用いようとしておりますが、基準時点でのデータはございません。今後、アンケートを実施いたしまして、可児市の地域資源と言えるもの、ブランド化されて認知されているものを具体的な名称で把握をしようということで、そこで書いていただいた、例えば里芋なら里芋と書いていただいた方の、そういった幾つか地域資源がございますが、そういったものを具体的に答えていただいた方の割合を90%にしようという目標でございます。

続きまして、9ページをお願いします。

下のところに、またKPIが3つございます。

この施策では、高校生の市内就業を進めるといったことから、1つ目のKPIについては高校生、この高校については可児工業高校を予定しておりますが、可児工業高校の進学者を除いた生徒数のうち市内企業に就職した生徒数を掲げるということで、4人に1人、25%を目標にしようとして設定しております。

2つ目の仕事と育児の両立の関係では、岐阜県が従業員の仕事と子育ての両立支援に取り組む企業を岐阜県子育て支援企業登録制度というもので登録をしておりますので、その登録企業を倍にふやす、100企業にするといった目標としております。

3つ目につきましては、ハローワークで求職した外国籍市民の数ということで、これについても外国籍市民の就労状況を把握するデータとして把握をしております。非常に景気動向に左右される面もございますが、現状よりもふやしていくということで、目標としては12%の就労率を目指しております。

続きまして、10ページをお願いします。

上のところで、基本目標2の数値目標が2つございます。

1つ目の観光交流人口は、市内の観光施設への入り込み客数というものでございますが、平成31年度に450万人にしようとして、平成26年度から約87万人増加させようということで、実際には平成21年度、平成31年度のちょうど10年前が約222万人でございましたので、平成21年度から倍の約450万人にしようといった意味合いもございます。

2つ目の数値目標として、可児市に愛着がある人の割合ということでございますが、ここで済みません、1つ訂正をお願いいたします。基準値が現在18%になっておりますが、16.7%に訂正をお願いいたします。

これは、アンケート調査によって把握をするものでございますが、定住をしたいという理由の中の1つに、可児市に愛着があるからといった理由を掲げる人がございます。そういった愛着を持つ人を高めていくことで定住率のアップにつなげようというもので、3割を目指すといったものでございます。

続きまして、11ページをお願いします。

K P I、新たな交流人口の増加数ということでございますが、先ほど10ページの数値目標の上の観光交流人口、約87万人の増加を目指すという目標を立てておりましたが、そのうちの約8割、70万人相当を新たに可児市の観光施設等を訪れていただくということで、70万人を新たな交流人口の増加数として設定しております。

続きまして、12ページをお願いします。

12ページ、定住・移住に関するK P Iでございます。

本市におきましては、可児市を選んだ理由の最も多いものとして住宅事情、そういったものが多いです。その住宅事情のよさが可児市の力、ポテンシャルの一つと言えるんですが、この住宅事情によって可児市に転入した人の数をふやそうというものでございます。リーマンショックの前と後でこの数が大きく変動しておりまして、リーマンショックの前は平均で約794人、年間住宅事情で転入増でした。それがリーマンショック後の平均は約640人ということで、150人余り減少しております。今回の目標としては、今後5年間で、150人余り減ったものの半分、76人をふやしていくということで、年間の住宅事情を理由にした転入数を720人とするとといった目標設定としております。

2つ目のK P I、可児市にずっと住みたい人の割合については、これもアンケート調査の結果でございまして、過去の同様の調査結果では8年間で約3.9ポイントの上昇というような実績もございますが、今回、この5年間で4ポイント上乘せして70%といった目標設定としております。

続きまして、13ページをお願いします。

13ページの下の方のK P I、3つございますが、1つ目、文化創造センターの利用者数は文化活動の拠点である文化創造センター a 1 a の利用者数を目標設定してあるわけですが、文化創造センター a 1 a につきましては主劇場や小劇場、これは稼働率が80%現在でございます。休日においては予約しようと思うと1年前でも予約が困難なような状況もございます。したがって、この目標値については現状維持レベルということで32万4,500人といった設定をしております。

2つ目、可児U N I C スポーツクラブの参加者数でございますが、これは幅広い年代のスポーツ活動の推進を示す指標として考えておりまして、現在、教育基本計画、教育委員会のほうで計画をつくっておりますが、その計画の中でこの可児U N I C スポーツクラブの登録

者数の目標設定がございますが、その数値からこの講座の参加者数を計算いたしまして、現状より少し増加ですが2万7,000人といった目標としております。

それから3つ目の目標、支え合い活動をあらゆるものとしてKマネーの交付額でございます。このKマネーについては、高齢者への支援ですとか子育て支援、そういったボランティア活動を行ったときに付与されるポイントによって交付されるKマネーの額を700万円にふやしていこうといったものでございまして、登録ボランティアが現在よりもふえていくという想定のもとでのKマネーの交付額の設定でございます。

続きまして、14ページをお願いいたします。

14ページのKPIは、子供たちのふるさとを愛する心を育むということで、これは美濃桃山陶の聖地ということで、お茶会をやることで体感しようというものでございます。これは実施校の目標値を11校としておりますが、小・中9年間の中で全ての児童・生徒が講習を受けられるように計画的にやるということで、目標値は11校としております。

続きまして、15ページの基本目標3における数値目標でございます。

2つございますが、1つ目は、子育てしやすいと感じている市民の割合ということでございます。これについても同様のアンケート調査の結果で、過去の例ですと4年間で1.9ポイント増加しているというような実績がございましたが、今後5年間において4.5ポイント上げた45%を目標とする設定をしております。

2つ目の数値目標の児童・生徒の学校生活の満足度、これは学校が学校アセスメント調査というものを行っております、そこで子供たちの学校生活の満足度をはかっているものでございます。小学校の平均が全国40%、中学校は35%でございまして、可児市はいずれも大幅に上回った満足度、満足が高いといった状況でございますので、それぞれ60%という現状維持的なものですが、高い水準を維持するといった目標でございます。

続きまして、16ページのKPIをお願いいたします。

3つございますが、1つ目の乳幼児健康診査、乳幼児健診の受診率でございますが、これは乳幼児健診を受けていただくことによって支援が必要な子供を把握する、早期発見できるというものにつながりますので、目標設定をさせていただいております。98%という目標値につきましては、母子保健におけるサービス実施目標というものがございまして、その目標値を採用しております。

2つ目の家庭教育学級、乳幼児学級を含むものに参加した延べ人数ということでございますが、こういった学級で子育ての大切さやノウハウを学ぶ機会ということでございますが、それぞれの学級の状況を見ながら受講者数をふやしていくということで、1,000人余りの増加目標としております。

3つ目のKPIは、子育てボランティアの登録者数でございますが、これは平成30年春にオープンを予定しております子育て支援拠点施設で活動してもらおうという方々の登録者数になりますけれども、この子育て支援拠点施設を中心に専門的な知識を持って活動していただけるボランティアの登録者数をこれから毎年30人ずつ育てて、5年間、平成31年度には延

べで150人までふやしていこうという目標でございます。

続きまして、18ページをお願いします。

子供の教育に関するKPIが5つございます。

まず1つ目のKPIは、不登校児童・生徒の復帰率ということで、小1プロブレムなどさまざまな問題に学校として取り組んでいくことによりまして、不登校になった子供の復帰率を高めていこうというものでございます。この目標値については、可児市の教育基本計画で設定された目標、小学校30%、中学校20%を採用しております。

2つ目の言葉と身体表現を使ったワークショップの延べ参加者数、これはコミュニケーション能力を高めるという取り組みについての目標指標でございます。心と体のワークショップというものをしておりますが、この事業を継続しまして現状レベルの参加者数を維持していこうということで、580人という目標値を設定しております。

3つ目のいじめ解消率については、これは可児市立の小・中学校のいじめの解消率でございますが、これについては参考指標、目標ではなくて参考指標としておりまして、こちらも教育基本計画で同じように参考扱いされておる指標を同様に設定させていただいております。

4番目の外国籍生徒の高校等への進学率（帰国を除く）というのですが、これは外国籍児童・生徒の就学、進学を支援する施策の成果として上げております。この進学率については、やはり景気の動向などで大きく変わってまいります。この78%という目標は過去5年間の平均の進学率でございます。その状態を維持していこうという目標設定としております。

それから、その下の美濃桃山陶の聖地は、先ほど出てまいりましたものと同じKPIを使っております。

18ページの一番下のところで、出会いの場づくりというところのKPIでございますが、こちらは市内で行われた婚活事業への参加者数ということでございます。今回この総合戦略の策定に当たってのアンケートにおいて、やはり希望の条件に合う人と出会えないといった回答が37%余りございまして、やはり希望をかなえるという観点でこの婚活事業への参加者数をふやしていくというもので、平成27年度の約倍の200人を目指していくという設定でございます。

では、19ページをお願いします。

基本目標4にかかわる、まず数値目標でございます。

まず健康寿命でございますが、健康寿命については国などがデータを公表しておりますが、特に市町村別にこの健康寿命を出せるものとして、欄外に説明がございましてKDBシステム、国保データベースシステムというもので市町村別にデータが出るということで、これは国が出している健康寿命よりも若干低く数値としては出ておりますけれども、市で把握できるデータということで、このKDBシステムによる健康寿命を目標指標としております。平均寿命が延びた分以上に健康寿命が延びるといった目標の設定をしております。

2つ目の目標の地域福祉協力者の登録者数ですけれども、地域で支え合う、見守る、そう

いった活動をしていただく協力者数をふやしていくということで、この390人については第2期福祉計画がございまして、その計画の目標プラス年間40人の増加ということで、平成31年度で390人の登録者数を目標としております。

その下に健康づくりに関するKPIといたしまして、30分以上の運動を週2回以上、1年以上続けているということで、こちらについては、健康かにプラン21という健康増進計画の目標から30%以上という数値を持ってきております。

20ページをお願いします。

20ページのKPIについては2つございます。

1つ目の地域支え合い活動助成の支援件数ということでございますが、やはり地域での共助を進めるために支え合い活動を活発化していく、そういった助成制度を設けておりますけれども、今後新たに年1団体の助成をふやしていくということで、平成31年度時点で23団体以上への支援を行うといった目標としています。

2つ目の地域支え愛ポイント交換によるKマネー交付額については、先ほど同じ目標を出してありましたので、説明を除かせていただきます。

続きまして、21ページの下のところ到最后、安心して暮らせる生活環境づくりのKPIが3つございます。

1つ目は、地域の防災に関する目標ということで、今後、地区別の災害時行動マニュアル、現在はつくっておりませんが、共助を進めるためにそういった行動マニュアルをつくっていくということで、地域の防災組織が現在88ございますけれども、その6割の53組織でこのマニュアルをつくらうという目標設定をいたしております。

2つ目の自主運行バスの利用者数につきましては、安心して移動できる交通手段として市のさつきバスや電話で予約バスがございまして、その利用者数を今後も伸ばしていくということで、平成25年10月以降の伸び率が年間約1.9%の伸びをしておりますので、それを今後も続けていくということで、平成31年の年間の利用者数8万5,800人といった設定でございます。

最後、施設の稼働率でございますが、公共施設を有効に利用してもらうという観点で、代表的なものとして公民館を上げております。現在の目標から少し上げた30%ということでございますが、稼働率については、午前、それから午後5時まで、それから午後5時以降の夜ということで、1日3つの時間帯に分けて稼働率を上げております。1日、午前・午後・夜、どこかで1回利用していただくと、33.3%というのが数字になってまいります。26.4%という数字は非常に低い数字になっておりますが、1日を3つの時間帯に分けて算出しておるといって、そういう数字でございます。それを30%に上げるといった目標でございます。

あと、内容的なところを漏らしましたので少し戻っていただきまして、申しわけございません、9ページをごらんいただきたいと思っております。

9ページの真ん中、 番で仕事と育児の両立というものがございます。

1つ目の内容のところ、2行目の後ろ、保育士の確保というものを新たに追加しており

ます。現在、非常に未満児を中心としまして保育ニーズが高まっておりますが、そのニーズに対応するためにも保育士の確保が非常に重要になってまいりますので、取り組む内容として追加をいたしております。

あと、記載場所を変更したものが1つございまして、20ページ、21ページを見ていただきたいと思いますが、21ページの 番のところで内容の1つ目、住民による防災体制づくりの支援、9月の案では防災リーダーの養成、資機材の設置といったような内容を掲げておりました。これは20ページのほうの支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくりの 番、ここに地域防災への取り組みを入れておりましたが、内容的にはやはり防災・防犯をセットにして(3)の安心して暮らせる生活環境づくりに移すということで、記載場所を変えたものでございます。

内容については以上でございまして、こうした総合戦略の中身を概要版ということで資料3をお配りしておりますが、これについてもこれまで8月、9月の総務企画委員会で概略については御説明をしましたが、改めてこういった概要版という形で、基本方針として「住みごこち一番・可児 若い世代が住みたいと感じる魅力あるまちの創造」、その大きな目標のもとで4つの基本目標を掲げ、それぞれ施策を位置づけておると。それで、先ほど説明しましたような数値やKPIを掲げておると、こういったものが全体像をこれでつかんでいただくことができます。

それからもう1つお配りした資料で、資料4でございます。

今回の市の第四次総合計画の後期の計画とこの総合戦略を並行して進めておりますけれども、この総合戦略と総合計画の施策の関係、こういった形になっておるのかというのをあらわしたものでございまして、ごらんいただきましたように第四次総合計画に4つの重点方針がございますが真ん中の2つ、「子育て世代の安心づくり」「地域・経済の元気づくり」、ここに該当する施策がこの総合戦略の中では多く位置づけをされておるといったことが、この関係図から見ていただけることと思います。やはり、特に仕事をつくり、それから子育てしやすい環境をつくるなどして若い世代に住みやすいまちをつくっていくといったところから、第四次総合計画のこの2つの重点方針になるといったことでございます。

説明としましては以上でございます。

委員長（澤野 伸君） ありがとうございます。

それでは、ただいまの報告事項につきまして、委員の皆様から質疑を受けたいと思います。質疑のある方はどうぞ。

委員（可児慶志君） 最後に課長が説明してくれたところで、まちを元気にしないといけないということに今後重点がかなり移っていく、そのことはとてもいいことだと思います。

福祉、教育を充実していくためには、やはり経済基盤がしっかりしないと、これはもうとてもお金が回らない、財政が豊かにならない。これは今まで私も随分主張していることなんで、ぜひこれは本当に計画だけじゃなく、肝に銘じてぜひ進めてもらいたいなあとというふうに思います。

具体的に関連するところで1つちょっとお伺いしたいのは、7ページのところの「安定した生活基盤を築ける「人と経済が元気なまち」を創る」の基本的方向の中で、製造品の出荷額はかなり1,000億円以上という膨大な金額の増加を見込んでみえるけど、新しい企業誘致というようなことを先ほど説明をされたわけだけれども、これだけの金額を増加させようとすると、企業立地をする場所とか、あるいは具体的な産業構造であるとか、もっと具体的なものがないと、この1,000億円の増加というのは簡単なことではないんだと思うんですね。その辺の根底に何か具体的なものがあるかどうか、ちょっとお伺いしたいと思います。

総合政策課長（瀨瀬新吾君） 具体的には、二野工業団地での新しい工場の操業などを見込んでおるということでございます。

それともう1つ、補足的でございますが、この製造品出荷額については、やはりリーマンショックでどんと落ち込んでおります。これまでの製造品出荷額の実績を見ておりますと、これまで工業統計の中でピークとなったのは、平成20年度の調査結果で5,043億円ございまして、リーマンショックで平成21年度に3,340億円ということで、1,700億円ぐらいどんと落ちまして、その後また今持ち直してきておるような状況でございます。そういったことも踏まえながら、また新規の操業なども見込みながらということで、先ほどの数値でございました。

済みません、先ほどちょっとこのあたりの説明が漏れておりましたので、よろしくお願ひします。

委員（可児慶志君） 今の説明で、一つの根拠みたいなのはわかったんですが、そうすると逆に余り大きな飛躍というような感じもしないわけなんですけど、ただ、リーマンショックの影響から回復する、これからの経済見通しからしてリーマンショック以前の状態に戻る見込みというのは、今度逆にどこにあるのかなということもお伺いしたいですね。

人口の構成比率、労働力は減少し、市場の消費動向というのも当然減少していくわけですが、リーマンショック以前に戻るといふ、あるいはそのリーマンショック以前を超していくというのは、逆にどこに根拠があるのかなと。

総合政策課長（瀨瀬新吾君） 製造業でございますので、比較的人口による影響というのは小さい、逆に人口に影響を受けずに生産額等を上げていくことができるものだと思っておりますが、産業振興課としましてもそのあたり、今後の二野工業団地の新工場の本格生産開始のあたりをかなり見込んでおまして、結果的にリーマンショック以前のピークよりも上回るというような結果を見込むということにはなっておりますが、この製造品出荷額そのものについては、やはり人口減少の影響はそんなに大きくは受けていないということかなとは思っています。

委員（可児慶志君） ちょっと説明がよくわからない。

人口減少というのは、可児市の人口減少のことを言ってるわけじゃない。日本全体の人口が減少しますと、当然経済活動というのは全体で低下してくるわけですから、その中で、要するに消費が低下すれば製造品出荷額というのは当然全般的に日本全国下がりますよね。そ

れが全般下がっているのにもかかわらず、可児市においてはそういうリーマンショック以前を回復し、それ以上を目指していくというのは、ちょっとよくわからない。

何か特別な手だてをしないと、二野工業団地といってもそれほどもう余裕地がたくさんあるわけではないので、リーマンショック以前以上に回復するというのはちょっと説明的に非常に弱い感じがするんだけど、目標にして取り組まれることは非常に結構なことなんですけど、その辺の根拠と、それから具体的な施策というのを明確に立てて、かなりハードな目標数値じゃないかなあと思うので、しっかりとこれを検証して、達成できるように努めてもらいたいと思います。

最後は意見で結構です。

企画部長（佐藤 誠君） ただいまお話がございましたように、平成20年のリーマンショック以前に戻ることはなかなか難しいんじゃないかというような御意見であったと思いますけれども、考えてみますと、人口が日本全体で減少していくとなりますと、日本全体の市場規模というのは当然縮小に向かっていくということだと思いますけれども、一方、世界に目を向けたときには、当然、新興国を初めとしてかなり需要というものが、今は経済状況というのが悪くなってきつつはあるところもありますけれども、他の国を見ますと、人口規模もだんだんふえてきておるような状況もあるわけですね。

そうしますと、輸出関連の企業でいきますと、国内の市場規模は縮小するんですけども、世界に目を向けたときには、当然輸出という部分でいけば、その企業の生産力というものは当然それに合わせる形でふやしていくということだと思っております。

そうした場合に、二野工業団地に今現在進出しております企業、日特スパークテック東濃といったところは、当然国内の市場だけではなくて、全世界の部品としての提供ということになってきますので、十分その辺のところは見込めるのではないのかなあというふうに考えておりますが、ただ、それだけに委ねるのではなくて、他の工場用地への企業誘致等も積極的に担当部署で行っていくという中で、このような数字を上げさせていただいておるということでございます。

委員（伊藤 壽君） 今の項目のところ、総生産額は目標値がアップしていますし、出荷額等もふえるという目標値なんですけど、市内従業者数が減るという目標設定になっていますが、このあたりの考え方と、基本的には従業者数をふやしていかないと、安定した生活基盤を築けるというまちをつくっていくというのはなかなか難しいんじゃないかと思うんですけど、その辺の考え方をちょっとお願いします。

総合政策課長（纈纈新吾君） 確かに生産年齢人口、労働力人口、一定の規模を維持して生産活動をしていくということは、非常に重要なことであると思います。

そういう中で、やはり全体の人口が減っていく中で、あるいは市内の生産力としては維持しながら従業者数が減っていくというのは、これまで実際の傾向としてございます。市は、この新たな企業の立地ですとか、現在ある企業の拡張などによって新たな雇用をふやすということにも努めてまいりますが、やはり統計的に見て減少していくというのは、実態として

そういう状況にあるということで、生産額や出荷額と逆の形でこの従業者数については出ておるという状況でございます。以上です。

委員（大平伸二君） 今、伊藤委員が言われたことも僕は1つ疑問に思っていて、出荷額が上がって従業者数が減るというのちょっと反比例した目標かなあとっておったんですけども、今の説明の中でそういうこともあり得るということではありますが、実情、一番下のK P Iの目標値、平成31年度に括弧して120人、170人ふえる予定だと言われるが、今、二野工業団地の日特スパークテック東濃のあの会社って、3年後か5年後でしたか、100人から500人規模のというお話を聞いていますが、そうしますともっと多いですわね、人数的には。

それともう1点、今、可児市の工業団地とか等々の企業を見ますと、自動車関連が多いんですが、今、小牧市や犬山市というのが航空機産業が物すごくふえておりまして、全国的に、ああいうところからの連携というのがとれないもんですかね。今、各務原市と美濃加茂市と関市で航空機産業の連携をとって、工業団地をお互いに一番いいところに立地しましょうよという連携をとってみるんですけど、3市で。可児市はそういう計画はあるのかなのかということをお聞きしたかったんです。以上です。

総合政策課長（瀨瀬新吾君） まず、今後の新たな雇用については、これまでの誘致企業ですとか、それから拡張した企業の事業所面積当たりにはふえた雇用人数、そういったところからの算出をしてきておるということございまして、先ほどの日特スパークテック東濃のところから100人から500人のあたりの、どの辺の分まで把握しているかというのはありますけども、実際の拡張面積等によって出してきておるというものでございます。

それから、航空機産業との連携でございますが、実際にはそういったものはそれぞれ民間企業の中でのつながりといいますか、そういったものがあって、そこで実際に関係がある企業が進出してくるという可能性はあると思います。そういったあたりは、企業誘致の実際に担当課が営業なんか回っておりますので、そういう中で把握できればそういった可能性はあるのかなというふうには考えておりますが、今ちょっと具体的にはそういった情報は、済みません、私のほうでは把握はしておりません。

それから、美濃加茂市、関市、各務原市が連携協定をたしか結んでみえまして、工業団地の土地を融通するというような、何かクラウドファンディングというか、創業とかそういうような関連でというのは確か報道はされておったかと思いますが、現在可児市のほうでは、特によその自治体とそれを進めるといったようなところは現時点ではございません。

委員（山根一男君） 8ページのところで、地域産業の活力づくりのK P Iのところで教えていただきたいんですけども、地域通貨Kマネー発行額です。

3,700万円を1億5,500万円、4倍強以上という形で、これは考え方ですけども、今までのようなインセンティブ的な、リフォーム助成金とかP T Aの資源回収とか、そういうことだけではとても賄い切れる数字じゃないと思うんですけど、どういう算段があって、私がおちよと認識不足なのかもしれませんけど、教えていただきたいなあと。

その上の創業・起業件数は、累計なので75件ということだと思いますけど、参考までに、

例えば去年とかおとしとか、年間どれぐらい市内で起業・創業されているかという数字が、もし持ち合わせがありましたら教えていただきたいなあと思います。

総合政策課長（瀧瀬新吾君） まず最初のKマネーの発行額でございますが、市から現在補助金とか報償費というような形でお金でお支払いしているものをこのKマネーに振りかえていこうということで、その振りかえたときの最高の額が約1億5,500万円というような見込みのものでございます。現在は、なかなかいろんな条件があつての3,700万円というような状況でございますが、それはできるだけふやして市内消費につなげていこうという目標設定でございます。

それから、市内の創業件数の実績については、済みません、今データを持ち合わせておりません。

委員（可児慶志君） 先ほどの製造出荷額に関係していることと今のKマネーに関することなんですが、ともに話を聞いていると、もう一つ踏み込みが弱いなあというようなことをすごく感じます。例えば県の総合戦略の中では、具体的に航空宇宙産業で4,000億円にするというように具体的な数値が書いてありますよね。だから、重点的に何を取り組むかというようなことというのが、課長の話だと民間のことだからというようなことでちょっと逃げちゃっている。だから、具体的にもうちょっと突っ込んでいかないと、先ほど言ったように達成をすることはとても難しいんじゃないかなというふうに思うので、もうちょっと突っ込んで、具体的な計画として明記をするようにしないといけないというふうに思います。

それから、今のKマネーについても、ふやすというのは簡単にできることじゃあないと思うんですよ。どういう政策をぶち込むとこれだけの、5倍か4倍か何かの数字になっていくのかということ、今の製造品出荷額と同じようにベースを整理していかないと、達成はなかなかしないと思います。

また、この中の感覚で思うのは、この1億5,000万円のKマネーを発行することによって地域経済の活性化なんていうような部分を書いてあるけど、1億5,000万円ばかりの金額で地域経済の活性化には全然つながらないです。この辺の感覚が、どうもまだ行政というのは、1億5,000万円というのは本当にわずかですよ、商工業の製造品出荷額から、商品の販売金額から言ったら。それをここに書いてあること自体が、感覚がちょっとおかしいんじゃないかなあという感じがしますので、その辺の見直しというか、感覚をもうちょっと鋭く磨いて取り組んでもらわないと、数値は出すけれども実際の結果がなかなか出ないんじゃないかなあということすごく心配します。

だから、その辺はよくやってもらいたいということと、それからもう一つ、新たなこととして思うのは、13ページの地域の市民の元気づくりのところなんですけど、これは全般的に、KPIでいうと文化創造センターの利用者数だとか可児UNICの講座参加者数とか書いてあるんですが、こういう目標項目だとかの設置で地域の市民の元気づくりというのはちょっと弱いと、これがKPIでは、大して伸びないことであろうし、もっと、例えばスポーツであるんならば、全国大会とか国際大会に出られる選手を養成するぐらいの思いで臨まないと、

単なるスポーツに親しむ人口をこれだけにふやしましょうというようなことでは、K P I というふうには僕は余り捉えられないような気がします。大体こういう大して変わっていない数値をK P Iとして捉えること自体がちょっとおかしいんじゃないか。もうちょっと高い目標数値をつかって重点的に取り組んでいくというのはわかるけど、大して伸びない数値を捉えて、これをK P Iでございますというのは、ちょっと市民に対して説明というのはすごくしにくい、私としてはしにくいなあということを感じます。もっとこの辺のところを別の観点で、今からではちょっと書き直すのは難しいかもしれないんだけど、ちょっと提起してもらいたい、継続的にね。と思うんですが、いかがですか。

最後のことでいいです。

総合政策課長（瀧澤新吾君） 確かに数字だけを見ますと、御指摘のように文化創造センターの利用者数、それから可児U N I Cの参加者数はふえていないということでございます。ただ、文化創造センターにつきましては、先ほど少し触れましたように、やはり現状でかなり高い利用率をされており。さまざまな事業もそこで行われておることから、現状を維持することそのものが非常に高い目標であるというような考え方ではあります。可児U N I Cについては、御指摘の点もございますので、今後取り組みの中でこういった目標も含めて経過を見ていきたいと思っております。以上でございます。

委員（可児慶志君） 文化創造センターは、別にこれを否定するわけじゃないんだよね。伸びるものを上げてK P Iにして、目標として取り組んでいくべきじゃないかと。いいものを別に無視しろというわけじゃなくて、もうちょっと伸ばそうじゃないかという目標。大して目標ないじゃないかというような印象として捉えられてしまうよという、こういう市民の文化芸術を積極的に元気づけていこうということには、この数値では見えない。だから、違う目標設定をして数値目標をつかって、もっと元気になるようなという形に市民に示してほしいという意味です。

企画部長（佐藤 誠君） ただいまの可児委員の言われましたことは、十分理解はさせていただきまして、ここに上げてありますK P Iは3つございますが、これ以上数字的には現状維持でという先ほどの文化創造センターの件もありますけれども、より市民の方から見てもう少し数値として上げられるものを、より具体的に、これだけ頑張ったんだからこういうふうには上げられるよという部分を十分勘案させていただく中で、再度検討したいと思っておりますが、ただ、その辺のところ、実際にK P Iとして上げられるものがあるのかなのかということも含めて、十分検討させていただくということで御理解いただければと思います。

委員長（澤野 伸君） じゃあ、ちょっと私のほうから、K P Iの考え方なんですけど、Key Performance、現状を維持するというのも指標項目として上げるというのは考え方としてはあるんですけど、その指標で、例えば新しいパフォーマンスで、指標数値ゼロからどれだけ上げられるかといったほうが、可児委員の御指摘、市民感覚からするとわかりやすいのかなあと思うんですけど、そういった指標の取り入れ方というのは特に当て込みはないということではよろしいですか。

指標項目として、現状維持という指標の出し方もわかるんですが、今、可児委員のおっしゃったように新しい部分で、パフォーマンスをどう指標で出していくかという部分での市民への見せ方、行政はこれだけ頑張っているんだよという見せ方、出すことは可能かどうかの質問ですけど。

総合政策課長（瀨瀬新吾君） K P Iは重要業績指標です。新しい視点でその業績をはかるものであれば、新しいものというのは可能だというふうには思います。

委員長（澤野 伸君） 見せ方のこともあると思うんですけど、今の回答ではちょっとよくわからないんですけど、何か出てくるんですか、まだ。特にないですよ、何かありますか。

総合政策課長（瀨瀬新吾君） 今回いろいろこの指標というのをどう設定するかというのは、我々と担当課との間で何度もやりとりをしながらつくってまいりました。

実際、新たに指標となるようなものを出すというのは現状としては非常に難しいという状況ですが、今後こういった取り組みを進めながら、その中で新たにやはりこの指標で見るべきじゃないかというのが出てくる可能性もございますので、そういった場合には、この戦略の見直しとあわせて新たなK P Iの設定ということは考えられますので、そういった意識で見ていきたいと思います。

委員（渡辺仁美君） 済みません、私は細かい点を3点ほどお尋ねしたいです。

まず、11ページのK P Iなんですが、新たな交流人口の増加数ですね。これってまさに今委員長の言われたそういう数値目標にひょっとしたらなり得るのかなあと思ったんですけど、この新たなというのは、先ほどの説明でちょっと私は理解しがたかったんですけど、全く可児市に初めて来たよという方の数字なんでしょうか。

総合政策課長（瀨瀬新吾君） これは新たに来訪していただいた方が70万人という目標設定でございます。

委員（渡辺仁美君） わかりました。

そうしましたら、これはまさに委員長の今おっしゃった、すごいポテンシャルを持つ数字かなあと思うんですけど。

あと、次の点ですが、16ページのK P Iの最初の乳幼児健診ですけども、これは出産しますと必ず行くというのが普通の母親の認識ですので、私も3人分行きましたけれども、これってむしろ数値目標の98.0%以外の人、その2%の人が何で行かれないのかというところに少し、そういう少数派のところに目を向けてあげると非常にきめ細やかでいいのかなあと感じましたので、これは質問というよりも提案かもしれません。

総合政策課長（瀨瀬新吾君） そうですね。おっしゃるとおりこれは100%になるのが一番望ましいと思いますけども、実態としてさまざまな事情で受けられない方もあるというような状況があって、母子保健のところでの98%という目標設定をしておりますが、より高めていくという観点で、それぞれ仕事は進めていきたいというふうに考えております。

委員（渡辺仁美君） もう1点は、18ページの上のK P Iのほうですけども、1つ目の不

登校児童・生徒の復帰率ですね。これは希望的にはもうちょっと高く設定していただくとありがたいなあというか、戻らない子がそのままどうなっちゃうかなあと考えると、すごく複雑な気持ちになります。人づくりという意味で、人を育成するという意味で、すごくここは大事ななあ。その人生の出発点のところにくじけちゃうところを、別に物理的に学校じゃなくてもいいんだけど、どこか自分がいられる居場所というのか、そういうのをちゃんとつくってあげる必要があるのかなあと、こんなふうに感じます。

総合政策課長（瀨瀨新吾君） これについては、教育基本計画を今年度つくっておきまして、その中で協議をされて設定をされた目標ということで、申しわけありません、この詳細について今お答えすることができない状況ですけれども、御指摘のように、やはりさまざまな取り組みの中で、一人一人に寄り添って復帰を目指すということはとても大事なことで、可児市としても今そういったことで専門職員をふやしたり、それから学校教育力向上事業のような形でさまざまな取り組みを進めておりますので、そういったことは今後も意識して進めていくことになると思います。以上です。

委員（渡辺仁美君） 済みません、続きなんですけど、先ほどの皆さんの御意見や御質問を聞いていまして、企業誘致という可児市のこれからにとってすごく大切な部分について、皆さんの御意見が聞かれたのですばらしかったのですが、私、航空機産業に身を置いているのが6年目なんです。

可児市は小牧南工場からもすごく立地的にもいいし、何かちょっと企業のこれはいいというメリットさえつけてあげると来やすいと思うんですが、例えば今でも車や航空機の部品工場ってあると思うんです、可児市内に。ですから、その数をふやすだけで随分と違ってくるのかなあと思うんですけれども、その点についても補足ですので、これはお答えいただかなくても構いませんので。ありがとうございます。

委員長（澤野 伸君） 企画部長、何か総括でお答えがあれば、それで締めたいと思いますが、よろしいですか。

企画部長（佐藤 誠君） 先ほど不登校の児童・生徒の復帰率、これは先ほどお答えをいたしましたように教育基本計画での目標数値ということになっております。

可児市におきましては、なかなか学校のほうに復帰できない子のために、教育研究所が主体となってスマイリングルームのほうに来ていただいて、勉強を教えたりとか、あるいはほかの情報機器なんかを使いながら学習支援をしていくというような対策がとられておるわけですけれども、学校の現場において不登校であったりとかそういった児童・生徒の復帰については努力はしていっしょにやりますけれども、なかなか現実としては難しい状況にもあると。ただ、これはいろんな要素が絡み合ってきておりますので、家庭の問題であったり、学校での問題であったり、その子自身の問題もあろうかと思っておりますので、そういったところを総合的に勘案しながら、学校の現場の中でも取り組んでおるといったような状況があるということでございます。

そしてまた、航空機産業につきましては、確かに工業団地の中の企業の内容をみてみます

と、自動車関連の企業も当然あります、部品関連の企業もありますけれども、先ほど言われましたように航空機に関連した企業も可児工業団地の中にもあります。小牧市のところから見ますと、距離的なところから見れば極めて、東海環状自動車道というものもできまして立地的なものもかなりよくなってきたという中で、今、経済政策課のほうで企業誘致ということで、少しでも可児市が求めるような企業に来ていただきたいということで、積極的に企業のほうに当たっておるということで、可児市独自の企業立地のガイド、いわゆる可児市に来ていただくと何が有利なのか、可児市として子育て環境もこうですよ、あるいは安全・安心の部分もこうですよ、そしてまた高齢者の方々にとっても住みよいまちですよというものを全体的にうたいながら、総合力で可児市の魅力というものがあるというところを訴え、それぞれの企業にお越しいただくということで企業誘致活動を進めておるといったような現状でございます。

先ほど委員の皆さん方が言われましたことにつきましては、十分担当部署のほうと連携をとりながら進めさせていただきたいと考えております。以上でございます。

委員長（澤野 伸君） ありがとうございます。

それでは、この項目については終了とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

それでは質疑を終了させていただいて、これで一応報告事項2つ終わりましたので、執行部の皆様、本当に長時間にわたりましてありがとうございます。

退出をしていただいて結構ですが、事務局、特によかったですかね。

それでは、この件について終わらせていただきます。

それでは、暫時休憩とさせていただきます。

休憩 午後2時37分

再開 午後2時42分

委員長（澤野 伸君） それでは、休憩前に引き続きましてそのほかの事項、総務企画委員会行政視察についてを議題とさせていただきます。

それでは、お手元の資料のほうのナンバー5の1と2、あわせて私のほうから説明をさせていただきます。

行政視察のテーマですけれども、5の1のほうで出させていただきます。

観光交流の観点で行政視察の中身を決めさせていただきますということでは事前にお話をさせていただきました。

詳細につきましては、10月27日・28日、火・水と1泊2日の日程でございます。

裏面のほうでちょっと一覧表のほうから説明をさせていただきます。

初日ですけれども、兵庫県西脇市のほうに入らせていただきます。

調査事項につきましては、希代の軍師・黒田官兵衛を核としたまちづくりということがメインテーマとなっております。

ここで、西脇市に入る前に姫路城のほうも視察をさせていただきます。全体の流れ、NHKの大河ドラマの誘致のメインでやられたのは姫路市でありましたけれども、現状の部分視察するという意味合いで、姫路城を先に見させていただいて、その後、西脇市のほうに入っていきたいというふうに思っております。

2日目ですけれども、同様に、こちらは京都の長岡京市ですけれども、お寺のほうですね、勝竜寺城を事前にちょっと見てから長岡京市のほうに入っていくといったパターンでいきたいと思っております。

2日目の長岡京市につきましては、細川ガラシャと明智光秀をNHK大河ドラマの主役ということで、こちらは今、精力的に活動されているまちでございまして、そうした取り組みについてを見ていきたいというふうに思っております。

特に2日目につきましては、本市の明智光秀も関連しますので、少し事前に皆様、関連の部分についてはいま一度ちょっと、皆さん御承知のとおりだと思いますけれども、少し文献等も読み直していただいて、積極的に交流をできたらなあというふうに思っておりますので、お願いをいたします。

具体的な部分につきましては、資料の5の2のほうで少し事前に資料を出させていただいておりますので、こちらのほうを少しお読みいただいて、この部分だけではちょっと足りませんので、よく他の資料等も含めて各委員の皆様、確認をしておいていただきたいなと思います。

事前にいただきました質疑についても、先方に出させていただいておりますので、これに基づいて御説明もあろうかと思いますが、また当日も当然ながら質疑のほう受けておりますので、積極的に御発言をいただければというふうに思います。

視察内容につきましては、ざくっと今説明をいたしました。

午前7時出発、これはもう貸し切りバスで動きます。集合時間は午前7時ではありません、午前7時出発でございますので、10分、15分前には来ていただくと大変助かります。

ちょっと日程が、姫路市まで距離がありますので、体調にはまた、調整のほうよろしくお願いいいたします。

ちょっと簡単ではございますけれども説明をさせていただきます、何か御指摘、御質問ありましたらお受けいたしますけれども。

何せ午前7時出発ですので、これだけはよろしくお願ひしたいと思います。

委員（可児慶志君） 京都府長岡京市では、協議会をつくって積極的にやってみえるので、こちらのほうからすると参加させてもらうという形になると思うんですけれども、それこそ林委員に相談して、いいお土産を持っていかないと、先方はお土産なかったら参加させてあげないよという言い方はおかしいけど、そんな感覚でいると思います。

委員長（澤野 伸君） そうですね。先行して明智光秀の関係は、細川ガラシャを中心に向こうは協議会をつくって積極的にやられておりますので、京都府中心に。こちら側は少し勉強させていただいて、少しでも何かひっかかることがあればありがたいなあとは思っていま

す。

委員（可児慶志君） 明智光秀のまちづくりについては、可児市観光協会が加わっていましたが、可児市としては参加していないですもんね。だから、可児市が将来協議会に参加させてもらいますよというような、お土産というのはそういう意味です。

委員長（澤野 伸君） 委員会としてその思いがあるということは、もし委員の皆さんの認識が一になれば、御発言いただいても結構かと思います。

可児市がというとちょっと語弊が起きますので、本市の総務企画委員会としては気持ちを一にして来たよというぐらいの御発言があってもいいかと思いますが。これに何か御異議あればあれですけど、御異議なければ。

〔「異議なし」の声あり〕

御異議なければ、委員会の気持ちとして、お邪魔することでありますので、それぐらいの御発言は当然、お土産というか気概を持って来たということぐらいは伝えてもいいかなあと思いますね。

委員（林 則夫君） 明智光秀については、亀岡市と、それから福知山市と可児市と、第1回の会合を可児市でやったんですよ。そのときに、大河ドラマの誘致についてもやりましたよね。うちがむしろ震源地なんですよ。

大河ドラマはこれから制作するの。

委員長（澤野 伸君） 制作というか、向こうは先行して協議会をつくって、行政主体でやられているんですね。

今、可児委員がおっしゃったのは観光協会の関係でやられていまして、ちょっと組織が違いますけれども。

委員（林 則夫君） ドラマはこれからですか。

委員長（澤野 伸君） もちろん、今、誘致のために一生懸命というところです。

委員（林 則夫君） まだ成功はしていないということですね。

委員長（澤野 伸君） まだです。成功事例と、これからということで、黒田官兵衛は成功しまして、細川ガラシャのほうは今、一生懸命やっているそうです。その2つの事例ということで。

委員（林 則夫君） 西脇市と姫路市は、黒田官兵衛がどこで生まれたかという、生誕の関係で何かあるようですね。

委員長（澤野 伸君） 今、実はおっしゃるとおり西脇市と争っているんですよ、姫路市が、黒田官兵衛のほうは。出生の地は、実は争ったまま誘致合戦です。

あと、交流人口も、総合戦略もそうですけれども、かなりふやすと意気込んでいますけど、具体的にじゃあどうやってやっていくのかというのも、ちょっと今、答弁ではなかなか引き出せなかったの、具体的にうちの委員会からも提案できることがあればと思います。

それでは引き続き、そのほか事項2の議会アンケートについてを議題とさせていただきます。

議会改革特別委員会副委員長の山根委員より御発言をお願いしたいと思います。

山根委員から、簡単で結構ですので、ちょっと御説明のほうをお願いいたします。

委員（山根一男君） 6日に議会改革特別委員会を行いまして、今後の柱を幾つか話し合ってきたわけですが、その中の一番具体的で直近の課題として、議会アンケートをやるということ。2期目以上の方は記憶にあると思います、5年ほど前に2,000件を本当に手づくりで、政務活動費を皆さんで割いてやった記憶があるかと思いますが、思えばあれがやっぱり議会改革の出発点になっていると思いますので、5年たってどのように変わってきているかということと同じような規模で、ただし、今回は予算措置しているので業者の方も分析なんかには入ってくるので、皆で手書きで集計したりすることはないと思いますが、そういう形でやるということになっていまして、そのアンケートをどのような設問にするかということ、これは議会改革特別委員会だけではなくて、各常任委員会とか特別委員会からも何かこういうことを聞いてほしいということがありましたら、加えていただきたいということです。

前回19設問しておりまして、1番から5番までは年齢とか性別とか当たり前のことで、それから可児市議会について、あなたは市議会に関心がありますかとか、二元代表制について御存じでしたかとか、そのようなことを聞いています。それから10問目、市議会議員の選挙に行きましたか、それと市議会議員の活動内容を御存じですかとか、あなたの意見や市民の声が市議会に反映されていると思いますか、あなたは市議会議員に自分の意見や要望を伝えたことがありますか、あなたは市議会議員にどのように自分の意見や要望、提案事項を伝えていますかというのがあって、あと、当時特に問題になっていました市議会議員の人数が22人であることについてどう感じますか、市議会議員の報酬が月額40万円であることについてどう感じますか、あるいは政務活動費の2万円についての評価とか、それからあなたは市議会の改革が必要だと思いますかということと、あなたは具体的にどのような市議会の改革が必要だと思いますか、18番目に、あなたは市議会報告会や意見交換会が開催されたら参加しますか、それから最後に、あなたは議会報告会や意見交換会が開催されたらどのような内容を期待しますかと。まだ議会報告会をやる前のアンケートでしたんでこういう設問があったんですけれども、これにプラスして、例えば総務企画の案件の中からとかいう形で、何か1項目でも2項目でも市民に聞いてほしいというものがありましたらそれを出して、余りたくさん出てきても、19よりプラスアルファ、多少どれかを減らしてふやすという形になると思いますけれども、大変貴重な機会ですので、総務企画委員会として特に今の観光のことなんかもしかしたらあるかもしれませんけれども、何が適切かはちょっといろいろと出してみたいと思いますけれども、何かアンケート項目としてこれはということがありましたら、最終的には10月29日に第2回目の特別委員会があって、そこでアウトラインを決めていきたいと思いますので、この委員会としてはいつごろ、四、五日中ぐらいですかね、何かありましたら委員長なりのほうに申し伝えていただければなあと考えているんですけれども、いかがでしょうか。

委員長（澤野 伸君） ありがとうございます。

今、御説明がありましたとおり、もう一度議会アンケートをやるということで、その中身について総務企画委員会、常任委員会からも何かあればということでの御提案でございました。

個々で委員の皆さんから私のほうに、もしこういうのということであれば、それをそのまま特別委員会のほうに報告をいたします。ただ、採用をされるかどうかというのが特別委員会での差配によりますので、それはそっくりそのまま採用されるということの保証はありませんけれども、委員個人の部分を取りまとめて委員会での御意見というふうに出させていただきます。あとは特別委員会のほうでもんでもらうという、この格好でいいですね。特に1個にまとめるとか、そういうことはよろしいですね。

〔挙手する者なし〕

わかりました。

そうしましたら、来週の10月19日までをお願いをいたします。私のほうか天羽副委員長のほうに、口頭でも結構でございますので、よろしく申し上げます。あと、事務局でも構いませんが、10月19日までをお願いをいたします。なければ、そのままなしということで報告をさせていただきますので、よろしく申し上げます。

この件についてはよろしいですか、皆さん。

〔挙手する者なし〕

それでは、そのようにさせていただきます。

そのほか事項、今終わりましたけれども、あと全体を通じて何かありましたら、委員の皆さん、よろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

では、視察が控えておりますので、十分またよろしく申し上げます。

また、大平委員は連続ということですが、体調には十分留意されまして、よろしく申し上げます。

これで本日の議題は全て終了といたします。

これにて総務企画委員会を終了いたします。ありがとうございます。

閉会 午後3時03分

前記のとおり会議の次第を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成27年10月14日

可児市総務企画委員会委員長